

## 会 議 概 要

|       |  |
|-------|--|
| 会議の名称 | 平成29年度第2次社会教育中期計画策定にかかる<br>第2回 第1専門部会（少年教育・青年教育・基盤整備）会議  |
| 開催日時  | 平成29年9月19日（火） 午後 6時00分～  |
| 開催場所  | 湧別町文化センターさざ波 団体研修室   |
| 出席者名  | 部会委員～平野委員、関谷委員、森谷委員<br>オブザーバー～宮澤委員長、石垣副委員長<br>教委～星課長、杉森係長、太田主任   |
| 欠席者名  | 佐藤委員、武藤委員  |
| 傍聴人の数 | なし   |
| 会議の内容 | (1) 第2次社会教育中期計画第1専門部会<br>少年教育・青年教育・生涯学習の基盤整備と施設等の整備分野の<br>現状と課題について<br>(2) その他   |
| 会議資料  | 会議議案   |
| 会議録   | <input checked="" type="checkbox"/> 有 （ <input type="checkbox"/> 全文筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 要点筆記 ）<br><input type="checkbox"/> 無 |
| 備考    |  |

## 結果要旨

【少年教育の現状と課題】について

別紙のとおり

【青年教育の現状と課題】について

別紙のとおり

【生涯学習の基盤整備と施設等の整備の現状と課題】について

別紙のとおり

○次回日程について

10月3日（火）13：30～ 文化センターさざ波にて

社会教育委員全体会議を開催する。

はじめに杉森係長より、前回話し合った内容を説明後、平野部会長により進行

※今回の訂正箇所は下線網掛け（追加）及び取り消し線（削除）

### 【少年教育の現状と課題】

現在の少年を取り巻く社会、家庭環境は、複雑で多岐にわたっております。

多様化する要因として高度情報化社会があげられます。室内でのゲームやスマートフォン等の普及により長時間利用が進み、顔が見えない相手との SNS 等での会話がコミュニケーションの手段のひとつになり、友達同士で外に遊びに行く機会は減少しています。おり、顔を合わせてのコミュニケーションが希薄になってきたことや、います。外で遊ぶこと等の体験不足により、ルールやマニュアルどおりにすることは容易に出来ますが、臨機応変の応用力が乏しく、良い悪いの境を判断する能力が非力ゆえに問題となるケースが見受けられます。

また、少年団活動や部活動に加入している子どもは基礎体力や運動能力に比較的優れていますが、日頃運動をしていない子どもは、十分な体力が備わっていなかったり、ボールを投げること、走ること等の基本的な運動能力が低く、体力の2極化が進んでいます。

このように少年教育の課題として、自然体験や異世代間交流、仲間づくり等の様々な体験活動の提供を求められています。しかし、近年子ども達たちは、少年団、部活動、塾等で日々忙しいなど、体験や交流・仲間づくり事業を実施しても参加者数が少なく事業が成立しない状況も見られることから、家庭や学校の理解、連携が欠かせない問題であると考えられます。

現在の取り組みとして、青少年指導センターでは中学生と高校生のリーダークラブを組織し、小学校高学年を対象に子ども会リーダーの養成を目的としたリーダー研修会を夏と冬に行っています。また、子ども会対抗の各種スポーツ大会においては、既存の単位子ども会のほかに湧別地区子ども会の連合組織「湧別地区サポート協議会」を加えてチーム編成するなど、湧別地区からも参加しやすい工夫をしながら実施しています。

しかし、これらは合併前からの継続事業であり、地区ごとの参加者数の偏りが見受けられることから、リーダー・指導者の養成や小学生から高校生・青年までのつながりを視野に入れた事業の再評価や見直しを積極的に進めなければなりません。

#### <今後の課題>

- 将来において豊かな人間性を育み、コミュニケーション能力を重視し、達成感の中から学ぶ様々な体験活動の提供を行う必要があります。
- 次世代を担うリーダー・指導者活動の支援・育成が必要です。
- 小学生から高校生・青年まで連携した事業の展開が必要です。
- 現在の事業に新たな取り組みの導入及び事業の見直しの検討が必要です。

#### 主な意見

平野：スマートフォンでの LINE やゲームの長時間利用により、家族での時間や友達同士が顔を合わせて遊ぶ時間が少なくなっている。

宮澤：私達が理想とするイメージは子どもたち集団で外で野球や鬼ごっこをして遊ぶことだが、現状は、外で集まってもゲームをしたり、親が外で遊ぶのは危険だと判断し、積極的に外で遊ばせないこともある。

関谷：集団での遊びがルールを学ぶ場だと思う。

関谷：「子ども達」の表現。現在の文部科学省等の文書では「達」ではなく「たち」のひらがなを使用している。

杉森：他の文章も確認して訂正いたします。

### 【青年教育の現状と課題】

成人式の「20歳の主張」において活躍を誓う姿が象徴するように、青年は地域のリーダーとして大切な役割を担っています。

近年、ボランティア等の社会貢献活動への参加意識は高まっていますが、依然として参加を敬遠する青年がいるのも事実です。実際に参加してみないとその面白さや充実感を味わうことや、経験を得ることが出来ません。社会教育の分野に限らず若い力が必要な場面はたくさんあり、個人で参加できる町民大学や成人文化教室など様々な学習を得る機会があるので、青年の事業参加についてもアプローチするとともに、参加を促すために青年の意見を取り入れ、若い力を活用していくことが町の発展に繋がると考えられます。

また、関係団体の連携については農協や漁協、商工会には青年部があり、それぞれ活動している現状であるため、職業間を越えた仲間作りが出来れば、新しい発想や事業に発展する可能性があります。

現在の取り組みについては、青年団体協議会に対し、活動場所として青年会館の提供や、青年団員拡大や主催事業の広報活動等、地元の青年が活躍できる地域に根ざした活動の支援を行っております。

これらの青年組織と連携を図りながら、同じ地域に住む様々な職業・立場を生きる青年が交流できる機会の提供が求められています。

#### <今後の課題>

- 青年同士の仲間づくりや集う場の提供が必要です。
- 活動機会が少ないことから、青年が活躍する機会の提供が必要です。
- 青年の意見を聞くが気軽に意見を言える機会を設け、活動に積極的に関わる人材の発掘・育成が必要です。

#### 主な意見

平野：今後の課題で、「青年の意見を聞く」という表現が、対等ではないので、こちらから意見を聞きに行く様な表現に直したい。

宮澤：気軽に意見を言えるような機会の提供が必要だと思う。

### 【生涯学習の基盤整備と施設等の整備の現状と課題】

生涯にわたってあらゆる機会や場所において、様々な学習活動がより効果的になるよう各関係機関・団体との連携強化に努めてきました。

また、地域の施設を拠点とし、地域ぐるみで生涯学習を推進するサークル等が自主的に学習活動を行うための支援、生涯学習情報誌の発行や相談体制の充実を図ってきました。

現在、生涯学習施設として、文化センター（2施設）、ふるさと館JRY、郷土館、図書館（2施設）、総合体育館（2施設）、野球場（2施設）、ゲートボール場（2施設）、パークゴルフ場、スキー場などの施設があり、多くの町民に利用されています。

しかし、昭和50年代から60年代にかけて建設された施設については、老朽化が進み、改修工事や修繕を必要とする施設が多く、計画的に改修工事等を図っていますが、まだ整備が必要な施設があります。

施設の維持管理については、民間の能力を活用しつつ、住民サービスの向上や経費の削減を図ることを目的に指定管理者制度（ふるさと館JRY、図書館を除く）を導入し、利用者の視点に立った施設の整備充実を図るため、指定管理者と協議しながら、サービスの向上に努めてきました。

また、町内全ての公共施設等における将来の基本的な管理方針を定める「公共施設等総合管理計画」が平成29年3月に策定されたことから、施設の統廃合も含めた具体的な実行スケジュールが提示される予定でしたが、この計画を踏まえ、今後も町民が生涯にわたって、日常生活の中で目的に応じて気軽に施設の利用ができるよう、施設の適正な維持管理や整備の充実に努めます。

#### <今後の課題>

- 各関係機関・団体との相互の連携・協力を図る必要があります。
- 生涯学習情報の収集・提供、相談体制の充実に努める必要があります。
- 住民の自主活動に対する支援体制の整備が必要です。
- 必要に応じ施設の改修等に努める必要があります。

#### 主な意見

平野：公共施設の統合や廃止は今後、管理計画のスケジュールが示されて行われていく。

財政面からみても、統廃合は致し方無いと考えている。

宮澤：合併前の上湧別町では、「生涯学習ハンドブック」という施設や少年団、サークル等の情報を記載した小冊子を配布していた。こういった気軽に手に取れる冊子があるとよいので、現在の情報で作成してみてもどうか。

石垣：気軽に生涯学習に触れられる良い冊子だと思う。町民1人1人に今まで知らなかった団体や施設に興味を持ってもらうきっかけになると思う。

宮澤：今後の方策として、生涯学習の基盤整備として「生涯学習ハンドブック」の作成を入れてみてはどうだろうか。

平成29年度

第2次湧別町社会教育中期計画策定にかかる  
第2回 第1専門部会（少年教育・青年教育・生涯学習基盤） 会議

と き 平成29年 9月19日（火）  
午後6時00分～  
ところ 文化センターさざ波 団体研修室

<会議日程>

1. 開 会

2. 部会長あいさつ

3. 議 題

- 第2次社会教育中期計画専門部会  
少年教育・青年教育・生涯学習基盤分野の現状と課題について

- <参考資料>
- ①第1回第一部会会議（8月29日開催）のてん末
  - ②平成29年度全国学力学習状況調査抜粋（全体傾向、生活リズム等）
  - ③平成28年度文部科学白書抜粋（第3章 生涯学習社会の実現）

4. その他

- 次回日程の確認

5. 部会長あいさつ

6. 閉 会

<第1専門部会構成員>

部会長 平野寿雄

部 員 関谷正樹、森谷和洋、佐藤あけみ、武藤智和

委員長 宮澤 道 副委員長 石垣誠一

事務局 星義孝、根子敏男、杉森伸一、太田雅史、野村亮太

## 第2節 少年教育の現状と課題・推進目標・推進項目

### 【少年教育の現状と課題】

現在の少年を取り巻く社会、家庭環境は、複雑で多岐にわたっております。

多様化する要因として高度情報化社会があげられます。室内でのゲームやスマートフォン等の普及により、顔が見えない相手との SNS 等での会話がコミュニケーションの手段のひとつになり、友達同士で外に遊びに行く機会は減少しています。顔を合わせたコミュニケーションが希薄になってきたことや、外で遊ぶこと等の体験不足により、ルールやマニュアルどおりにすることは容易に出来ませんが、臨機応変の応用力が乏しく、良い悪いの境を判断する能力が非力ゆえに問題となるケースが見受けられます。

また、少年団活動や部活動に加入している子どもは基礎体力や運動能力に比較的優れていますが、日頃運動をしていない子どもは、十分な体力が備わっていないかたたり、ボールを投げること、走ること等の基本的な運動能力が低く、体力の2極化が進んでいます。

このように少年教育の課題として、自然体験や異世代間交流、仲間づくり等の様々な体験活動の提供を求められています。しかし、近年子ども達は、少年団、部活動、塾等で日々忙しいなど、体験や交流・仲間づくり事業を実施しても参加者数が少なく事業が成立しない状況も見られることから、家庭や学校の理解、連携が欠かせない問題であると考えられます。

現在の取り組みとして、青少年指導センターでは中学生と高校生のリーダークラブを組織し、小学校高学年を対象に子ども会リーダーの養成を目的としたリーダー研修会を夏と冬に行っています。また、子ども会対抗の各種スポーツ大会においては、既存の単位子ども会のほかに湧別地区子ども会の連合組織「湧別地区サポート協議会」を加えてチーム編成するなど、湧別地区からも参加しやすい工夫をしながら実施しています。

しかし、これらは合併前からの継続事業であり、地区ごとの参加者数の偏りが見受けられることから、リーダー・指導者の養成や小学生から高校生・青年までのつながりを視野に入れた事業の再評価や見直しをさらに積極的に進めなければなりません。

### <今後の課題>

- 将来において豊かな人間性を育み、コミュニケーション能力を重視し、失敗達成感の中から学ぶ様々な体験活動の提供を行う必要があります。
- 次世代を担うリーダー・指導者活動の支援・育成が必要であります。
- 小学生から高校生・青年まで連携した事業の展開が必要であります。
- 現在の事業に新たな取り組みの導入及び事業の見直しの検討が必要であります。

### 第3節 青年教育の現状と課題・推進目標・推進項目

#### 【青年教育の現状と課題】

成人式の「20歳の主張」において活躍を誓う姿が象徴するように、青年は地域のリーダーとして大切な役割を担っています。

近年、ボランティア等の社会貢献活動への参加意識は高まっていますが、依然として参加を敬遠する青年がいるのも事実です。実際に参加してみないとその面白さや充実感を味わうことや、経験を得ることが出来ません。社会教育の分野に限らず若い力が必要な場面はたくさんあり、個人で参加できる町民大学や成人文化教室など様々な学習を得る機会があるので、青年の事業参加についてもアプローチするとともに、参加を促すために青年の意見を取り入れ、若い力を活用していくことが町の発展に繋がると考えられます。

また、関係団体の連携については農協や漁協、商工会には青年部があり、それぞれ活動している現状であるため、職業間を越えた仲間作りが出来れば、新しい発想や事業に発展する可能性があります。

現在の取り組みについては、青年団体協議会に対し、活動場所として青年会館の提供や、青年団員拡大や主催事業の広報活動等、地元の青年が活躍できる地域に根ざした活動の支援を行っております。

これらの青年組織と連携を図りながら、同じ地域に住む様々な職業・立場を生きる青年が交流できる機会の提供が求められています。

#### ＜今後の課題＞

- 青年同士の仲間づくりや集う場の提供が必要であります。
- 活動機会が少ないことから、青年が活躍する機会の提供が必要であります。
- 青年の意見を聞く機会を設け、活動に積極的に関わる人材の発掘・育成が必要であります。
- ~~青年の学習意欲の向上が必要であります。~~



1  
2 第10節 生涯学習の基盤整備と社会教育施設等の整備の  
3 現状と課題・推進目標・推進項目  
4

5 【生涯学習の基盤整備と施設等の整備の現状と課題】

6 生涯にわたってあらゆる機会や場所において、様々な学習活動がより効果的に  
7 なるよう各関係機関・団体との連携強化に努めてきました。

8 また、地域の施設を拠点とし、地域ぐるみで生涯学習を推進するサークル等  
9 が自主的に学習活動を行うための支援、生涯学習情報誌の発行や相談体制の充実  
10 を図ってきました。

11 現在、生涯学習施設として、文化センター（2施設）、ふるさと館JRY、郷  
12 土館、図書館（2施設）、総合体育館（2施設）、野球場（2施設）、ゲートボ  
13 ル場（2施設）、パークゴルフ場、スキー場などの施設があり、多くの町民に利  
14 用されています。

15 しかし、昭和50年代から60年代にかけて建設された施設については、老朽  
16 化が進み、改修工事や修繕を必要とする施設が多く、計画的に改修工事等を図っ  
17 ていますが、まだ整備が必要な施設があります。

18 施設の維持管理については、民間の能力を活用しつつ、住民サービスの向上や  
19 経費の削減を図ることを目的に指定管理者制度（ふるさと館JRY、図書館を除  
20 く）を導入し、利用者の視点に立った施設の整備充実を図るため、指定管理者への  
21 指導助言を行いと協議しながら、サービスの向上に努めてきました。

22 また、町内全ての公共施設等における将来の基本的な管理方針を定める「公共  
23 施設等総合管理計画」が平成29年3月に策定されたことから、施設の統廃合も  
24 含めた具体的な実行スケジュールが提示される予定です。この計画を踏まえ、今  
25 後も町民が生涯にわたって、日常生活の中で目的に応じて気軽に施設の利用がで  
26 きるよう、施設の適正な維持管理や整備の充実に努めます。

27  
28 <今後の課題>

- 29 ○ 各関係機関・団体との相互の連携・協力を図る必要があります。
  - 30 ○ 生涯学習情報の収集・提供、相談体制の充実に努める必要があります。
  - 31 ○ 住民の自主活動に対する支援体制の整備が必要であります。
  - 32 ○ 必要に応じ施設の改修等に努める必要があります。
- 33  
34  
35  
36